見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

June 2022 vol.98

June						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

◆ 伊勢湾台風遭難者慰霊之碑

所在地：半田市瑞穂町

交　通：JR 武豊線「半田」駅 南東 約 1.7km

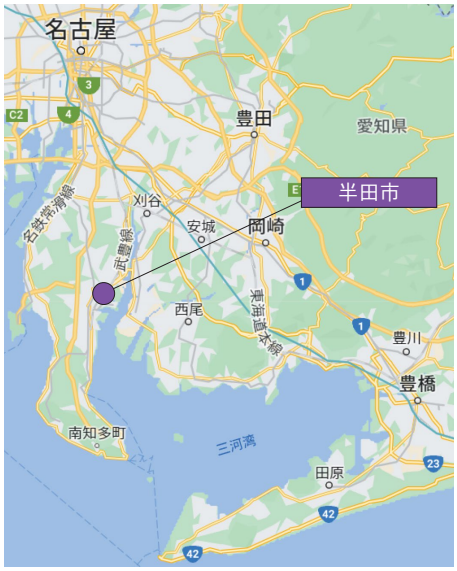
昭和 34 年の伊勢湾台風では、名古屋市南部や海部地域のゼロメートル地帯で甚大な被害が発生しましたが、知多半島の半田市でも、台風の通過が満潮に近く、また衣浦湾が台風中心の右側にあるという悪条件が重なり、それまでの最高潮位よりさらに約 1m も高い高潮が襲来するなど、沿岸地域を中心に大きな被害となりました。半田市の被害の記録は、台風の翌年 1 月に半田市役所が発行した「伊勢湾台風と半田市」にまとめられており、平成 21（2009）年には復刻版も発行されています。（https://www.city.handa.lg.jp/kotsu/bosai/bosai/kako/fukkokuban.html）

この記録によれば、半田市では、建物の全壊 938 戸、流失 511 戸、床上・床下浸水は 6,000 戸余りに及び、291 人の方が亡くなっています。特に、現在の半田市役所から東のあたり、山方新田と呼ばれた、江戸時代以降に新田開発された地域で被害が多く、この地域での死者は、半田市全体の犠牲者の 9 割近くに上る 266 人となっています。また、河川・海岸の堤防決壊は大きいものだけでも 43 か所、約 6km に及び、沿岸地域は高潮により冠水する被害を受けましたが、半田中学校の生徒の台風体験記には、「父は裏口に出て避難する人を見て笑っていた。父の頭には去る 13 号台風と、がんじょうにできた堤防のことがあったらしい」「避難してくださいということもでていたそうですが、あまり大きくないだろうと思って避難はしませんでした。」などとあり、昭和 28 年の 13 号台風後、堤防の構造が順次補強されたことから、堤防を信頼して避難を見送っていた人も多かったようです。

多くの犠牲者を出した瑞穂町には、伊勢湾台風遭難者慰霊之碑が建立されています。碑は台風から 3 年半後の昭和 38（1963）年 3 月に建てられたもので、瑞穂記念館と康衛池の間の敷地にあります。碑文には、台風による被害の状況とともに、「私たち七万市民はこうした悲劇を再び繰り返さない決意を新にし万全の対策を樹てることを二九二柱の犠牲者にお誓いするためこの悲しみの地を選んで慰霊之碑を建てご冥福を祈ります」と記され、災害を繰り返さないよう備えることを、犠牲になった方々に誓っています。

「伊勢湾台風と半田市」復刻版の発刊にあたり、当時の半田市長の言葉として、「被災から半世紀が経過し、被災体験者や遺族などが高齢化する一方で、伊勢湾台風を知らない世代が多くなりつつあるこの時期に、被災から学んだ教訓を風化させることなく、風水害の恐ろしさや災害への備えの大切さを、後世に伝えていくことが、私たちの責務であると考えます。」と述べられています。また、発刊に尽力した当時の半田南ロータリークラブ会長の言葉として、「この生々しい伊勢湾台風の記録は後世に伝えていかなければなりません。」とあります。慰霊碑や災害の記録などから、いまを生きる私たちが、過去の災害を我が事として実感し、備えにつなげていくことが重要です。

伊勢湾台風遭難者慰霊之碑



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

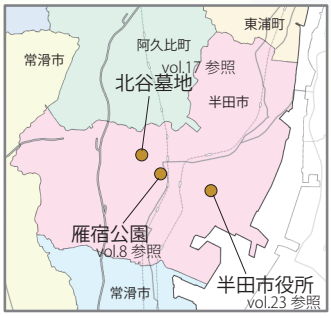
◆伊勢湾台風遭難者慰霊之碑の周辺には…

● 北谷墓地（きたたに）

所在地：半田市柊町

交　通：知多バス岩滑線「知多自動車学校前」南西 約 200 m

中島飛行機は、昭和東南海地震により、作業中に一命を失われた従業員、女子挺身隊、動員学徒などの霊を慰めるため､「震災殉難者之塔」(木製の柱）を建立しました。現在は石製の碑「殉職者諸精霊之碑」が建立されています。



● 半田市役所（東南海地震被災の地の碑）

所在地：半田市東洋町

交　通：JR 武豊線「半田」駅 東 約 700m

現在の半田市役所の場所は、昭和東南海地震で多くの犠牲者を出した中島飛行機山方工場のあった場所です。この碑は、半田市役所の敷地西側に建てられています。正面には「東南海地震被災の地」、側面には「中島飛行機山方工場跡」などと刻まれています。

● 雁宿公園（かりやど）

所在地：半田市雁宿町　　交　通：名鉄河和線「知多半田」駅 北西 約 800m

雁宿公園には、昭和東南海地震で亡くなった動員学徒らを追悼する「追憶之碑（左)」「殉難学徒之碑（右)」「半田・戦災犠牲者追悼平和記念碑」が建てられています。

◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html）をご覧ください。

★ 南吉さんの蛍まつり

南吉さんの蛍まつりは、半田市の新美南吉記念館で、毎年 6 月後半の金曜・土曜に開催されるイベントです。（2022 年は 6 月 24 日（金)、25 日（土）に開催予定、事前予約制）新美南吉記念館の裏の湿地帯に、2 日間で約 5,000 匹ものホタルが飛び交います。

ホタル観賞に合わせて、夜の南吉記念館を観覧できるナイトミュージアムや、南吉童話の朗読、キャンドル演出などのイベントも催され、飲食ブースも出店します。また、土曜日には会場内を巡るホタルクイズラリーも開催されます。ホタルの見頃は午後 8 時半頃、観賞は無料です。なお、会場内では、1 年間にわたるホタルの飼育・環境整備に役立てるため、ホタル募金が行われています。（過去のイベントより）

あいちの農産物

愛知県 HP より

知多 3 号たまねぎは、愛知の伝統野菜に選定されるたまねぎで、昭和 25 年頃に選抜された 1 号から改良され、現在は 3 号が栽培されています。形は甲高の真円球で、大玉は 1 個 500g ほどにもなります。肉質は柔らかく、甘みが強いため、サラダなどに利用されます。

主な産地は知多半島の大府市や南知多町で､6 月から 7 月にかけて旬を迎えます。

●ブレイクタイム●

♪ カブトビール

半田市では、明治 20（1887）年に丸三麦酒醸造所で本格的なビールの製造が始まり、明治 22（1889）年には「丸三ビール」として初出荷されました。その後、半田赤レンガ建物が新工場として建設され、銘柄もカブトビールと改められて、一時は東海地方で最大のシェアを誇りました。

カブトビールは第二次世界大戦中に製造中止となりましたが、平成 17（2005）年に復刻発売され、現在では、半田赤レンガ建物内のビアホールなどで楽しめるほか、お土産用のボトルも販売されています。

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター　2022 年 6 月）